

地域林政対談

イン 日南

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局等の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」をスタートさせました。

第二弾は、日南市の崎田恭平市長と大野理副市長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



森林セラピー基地 猪八重溪谷

「創客創人」というコンセプト

日南市では、「創客創人」という言葉をコンセプトに、「日本の前例は日南が創る」「日本一組みやすい自治体の挑戦」をキーワードとして地方創生取り組んでいる。政府の地方創生の取組の中では地域戦略というものを各自自治体で作ることになっているが、これまでの行政の計画は分厚いものになりがち。市民の皆さんも市職員も含めて、地域戦略の方向性をシンプルに共有する必要性があるのではないかとということが「創客創人」というコンセプトを掲げた背景。

その中で、歴史に立ち返って、日南、元々は飢肥藩と言われていたこの地域の強みを分析していった。まずは、大藩の薩摩藩の隣でどう生き抜いていくかという危機意識を常に持っていたということ。それから、小藩ながらも家臣の数も多く抱えている、「人は宝」という考えのもとでそれぞれの役割をしっかりと与えていた。産業政策

を次々と打ち出すことができたのは、人材育成をしっかりとやってきた地域であったから。これを日南市のコンセプトにしているというところで「創客創人」とした。

また、日南市では、マーケティング、商店街再生、飢肥のまちなみ再生を担当する3名の民間人を登用している。

マーケティングについては、「日本一組みやすい自治体」への挑戦ということで、地域の課題や地域の武器などについて、企業のリソース、資源を使って、武器を伸ばしていったり課題解決に繋げていくこととした。最初の頃は苦労したが、3・4年目ごろからは企業誘致も上手くいくようになってきた。この一年間で、IT系、映像関係などベンチャー企業10社の誘致に成功したところであり、これから5年間で200人を超える若者の雇用が生まれていくことになっている。

ウッドスタートなど、飢肥スギの普及に向けた取組を推進

それから、商店街再生では、シャッター商店街であった油津商店街について、民間人マネージャーには、4年間でこの空き店舗に20店舗を入れるという目標を課した。4年経った現在でこの目標を達成。商店街の中にはIT企業も誘致したところであるが、これは、消費をする側で空き店舗を埋めていくという手法である。

また、飢肥地域の古い町並みを保存することも課題であるが、まちなみ再生コーディネーターを全国公募で登用し、まず手始めに、2つの建物について、政府系地域活性化ファンドと地元の宮崎銀行の協調融資を活用。行政のお金を使わずに、改修をして雇用を生んでいく取組を今春からはじめた。

日南市の林業振興への取組については、赤ちゃんが産まれたらウッドスタートとい

うことで、東京のおもちゃ美術館と連携して、飢肥スギのおもちゃを贈呈するなど様々な取組を行っている。

また、「飢肥林業を代表する弁甲材生産の歴史」については、九州初の林業遺産にも認定されている。県の農林振興局とも連携しながら引き続き地域林業の振興にしっかり取り組んでいきたい。



崎田恭平 日南市長

● 建て方とあわせて日本の木材を普及することが重要

林業の成長産業化の実現に向けて、林業活動で生産される木材の需要先をいかに増やしていくか、ということが重要な課題です。日南市では、飢肥杉の製品開発や輸出など、販路拡大の取組を積極的に進めています。

日南市 大野副市長 飢肥スギには弁甲材生産の長い歴史があるが、現在では、飢肥スギをいかに活用していくかが大きな課題。なんとと言っても住宅需要が大事で、飢肥スギのモデル住宅で飢肥スギの魅力を多くの方にPRした。幼稚園や銀行、老人ホームなどにも木材をしっかりと使っている。他県でも飢肥スギを使った住宅が大変好評だ。飢肥スギの鞆はクラウドファンディングを使って、ニューヨークで出展・販売を行った。

木材の輸出では、志布志港が量的に一杯になりつつあり、日南市の油津港からの輸出も増えている状況。一方で、油津港も、チップ船やクルーズ船でタイトな状況であり、港湾の整備も課題である。

九州森林管理局 池田局長 大変活発に取り組まれているという印象。多くの団体が活発に取り組まれているとことで、これは飢肥スギの歴史も一因。

大野副市長 日南市の林業総生産が全体の産業に占める割合は宮崎県平均の倍近い値。林業に対する意識が地域として高い。

池田局長 宮崎県では伐採時期を早くむかえるため、問題に直面するのも最初。日南市の林業は、今後の林業を占う縮図であり、我々も課題解決に向けて一体的に活動していきたい。輸出については、台湾は検討されているのか。台湾は日本の住宅に関心が高く、ターゲットとしては面白い。

大野副市長 台中市に、日南（リーナン）駅がある。「日南」の繋がり、駅の開発計画に飢肥スギも使ってもらえるよう、県

と一緒に働きかけをしているところである。
日南市 崎田市長 日本の木材の使い方、日本の木材を使った建て方などを合同で展示できるとよいのだが。

池田局長 木材だけ売り込むのではなく、日本の住宅として木材を売り込もうとする戦略で取り組んでいるところもある。

宮崎県南那珂農林振興局 田原次長 軸組工法の技術を学んでもらおうということで、宮崎県では、韓国の建設業者を呼んで研修会を行った。

宮崎南部森林管理署 石神署長 向こうの建て方でプレカットを行って、輸出をしていると聞いているが。

田原次長 県内の製材工場とプレカット工場がタイアップして、輸出を行っている。
石神署長 飢肥スギ仮面というのをメディアで良く見かけるのだが。

崎田市長 飢肥スギ仮面は、地元のローカルテレビなどにも時々登場している。これを仕掛けたのは日南市の職員。以前には「飢肥スギ課」という部署名を設けて、各課横断的に飢肥スギの普及に取り組んだ。



木のぬくもりを身に着ける「飢肥杉バッグ」(日南市ホームページより)

● 人手不足には一人あたりの生産性向上で対応を

木材の販路拡大を進めるためにも、木材を安定供給していく体制が確保されていることが重要になっていきます。戦後に植林された森林資源も収穫期を迎えており、木材を生産する労働力についてもこれまで以上に重要性が増しています。

石神署長 国有林での丸太生産は、全て請負で事業体に発注しているが、入札に応じなくなる事業体が少なくなっている。丸太の安定供給にも影響が出つつある状況だ。植付や下刈りについても同じく厳しい状況。民有林での事業が増えてきており、国有林の仕事まで手が回らない、と言っている事業体もある。かなり深刻な状況である。

大野副市長 宮崎県全体の数字と比較しても、日南市の経営体数と林業従事者数は激しく減少。以前は、日南農林高校があったが、現在では、林業系の学科が廃止されている状況。所得水準といった観点で見ると、平均で3百万円を下回っており、所得面でも労働環境面でも入っていきにくい状況になっているのではないか。

池田局長 高校からしっかりと人材育成していかなければならないが、宮崎県にはその素地が無くなってしまっている。林業大学校という考えもあるが、高校教育から人づくりを始めた方が良い。

崎市市長 結局、給料が安くてきついため、林業系の学校に行く者がいなくなつて、学校の維持もできなくなっている。

池田局長 そういった意味でも、下刈りを省力化するなど林業生産体系を改善すること、また、状況の良い場所を選ぶことが重要で、この地域は地形も緩やかで色々なことが出来ると感じている。同時に、人づくりを絶対にやらなければならない。事業体の意識を変えていくため、森林管理局としてもプロジェクトを作つて動きだしたところだ。



低コスト造林を目指した低密度植栽の実証試験地(日南市内の国有林)

田原次長 宮崎県では、中山間地域の所得百万円アップを目指して、山菜など中山間にある資源を上手く組合せて取り組んでいこうというプロジェクトを立ち上げた。

池田局長 現在の丸太の価格を考えると、補助金が入っても林業単独で年収3百万円は難しい。生産性を上げていくことと、色々な副業的な収入を得ること、これらを両面で取り組んでいかなければならない。

崎市市長 人手不足であるから、作業の効率化、機械化により、一人の生産性を上げていくことは大変重要である。

池田局長 宮崎県では「ひなたもりこ」の取組をはじめた。女性の参加も大変重要だ。

田原次長 南那珂の森林組合では、女性も重機を操作している。作業強度も重要な視点で、機械化が進む伐採作業は良いが、問題は、下刈りをはじめとする造林作業。

池田局長 南那珂の森林組合は全国でもトップクラスの森林組合で優秀なスタッフも揃っている。日南でこれからの林業の姿を作れるとよい。

● 森林セラピー基地を観光資源に

現在、世界の観光需要を取り込み、雇用の創出などにつなげていこうという観光立国の推進に、政府全体で取り組んでいます。その中で、森林・林業分野においては、森林景観を活かした観光資源の創出に取り組んでいます。

大野副市長 猪八重溪谷については、森林セラピー基地として、山や木が持つ魅力をしっかりと感じてもらえるよう整備をしている。九州各県には森林セラピー基地があるが、どこの自治体もお金を落としてもらうにはどうしたらよいかが大きな悩み。そういつた中で、日南市北郷町の温泉による療養と森林のセラピーを掛け合わせたり、ウォーキングツアー、森の中のヨガなどとの組合せを観光資源に出来ないか、といった取り組みが続けてきている。各事業所ではストレスチェックがはじまってきているので、企業に向けて、森林セラピーを企業合宿のような形で利用出来ないか、営業活動を行っている。「日本一組みやすい自治体」として様々な企業からお声をかけていただいているので、そういった企業にも実際に森林セラピーを体験していただいている。また、国有林野事業として、猪八重溪谷の環境整備などのご協力をいただいております、改めて感謝。

池田局長 猪八重溪谷は、素晴らしい自然環境で、あれだけの照葉樹林は九州でも珍しい。レクリエーションの森としてだけではなくて、貴重な自然環境を維持している森が上流域に広がっているので、国有林としてもしっかり保全していきたい。企業との連携については、パンフレットを新たに作って、企業に話をしているところである。レク森を活用するプランを企業に作ってもらうよう働きかけをしている。

大野副市長 猪八重溪谷のそばにある温泉

旅館は一泊3万円ほどするが、セラピーロードまで近いこともあり、夏休みは子供連れの親子で一杯。先ほどシカの話もあったが、鳥獣害対策と絡めながら、ジビエの食材として使っていくと取り組みに深みが出ると思っている。自然環境だけでは記念撮影して終わってしまいがち。もう一歩先の取組に進んでいきたい。

崎田市長 猪八重溪谷のセラピーロードや飼肥の街とも連動して、付加価値のある体験が出来れば、宿泊、連泊をしてもらえるようになる。また、企業研修を考えれば、どういうことが企業にとってプラスになるかを見える化して示すことが重要。

池田局長 日本では、医療関係との連携がなかなか取れていない状況。ドイツのクナイプ療法のように、医師の指導を受けながら滞在することが進めば可能性が膨らむと思っている。



「森林セラピー基地」である猪八重溪谷
(NPOごんはるホームページより)

地域林政対談 イン 日南

平成29年2月6日(月)16:00~17:00

宮崎南部森林管理署会議室

出席者(敬称略)

○ 日南市

崎田 恭平 日南市長

大野 理 副市長

○ 宮崎県

田原 博美 南那珂農林振興局 次長(技術担当)

○ 林野庁九州森林管理局

池田 直弥 九州森林管理局長

石神 智生 宮崎南部森林管理署長

井堀 秀雄 九州森林管理局企画調整課長(進行)

